

## 今日のキーワード 今年の夏は「猛暑」(日本)

気象庁は先行き1カ月、3カ月を対象に大まかな天候を予想し、「季節予報」として発表しています。今年の夏は、「季節予報」の見通し通り、西日本を中心に猛暑となりました。個人消費は最近停滞していますが、猛暑効果により、エアコン、飲料、衣料などの季節商品の購買意欲増加により、個人消費の押し上げ効果が期待できます。

### ポイント1 今年の夏は全国的に暑かった 気象庁の「季節予報」の想定通り

■ 気象庁は、全国に929の観測地点を有し、気温をはじめとする気象データを集計し日々公表しています。このデータによれば、今年7月、8月の気温は、全国的に平年よりも高めとなっており、気象庁が「季節予報」で予想した通りの結果となっています。

### ポイント2 西日本が特に暑かった 昨年の冷夏から一転、8月は猛暑

■ 地域別に見ると、関東地区では例年より梅雨明けが1週間程度遅れましたが、東日本の平均気温でみると、7月が平年比+0.5℃、8月が+0.8℃でした。ちなみに昨年は7月が平年比+0.7℃、8月が+0.1℃でしたから、8月に関しては昨年との対比でも暑かったといえます。

■ 西日本の気温は、7月が平年比+0.8℃、8月が+1.3℃でした。昨年は、7月が平年比▲0.6℃、8月が▲0.4℃でしたから、大きな変化といえます。ちなみに8月の+1.3℃は、気象庁の定める分類では、「平年よりかなり高い」カテゴリーに属し、「猛暑」といわれる水準です。

【7月、8月の主要都市の平均気温】

	平均気温(℃)	平年差(℃)
札幌	22.1	+0.8
仙台	24.2	+1.2
東京	26.2	+0.6
長野	25.3	+0.9
新潟	25.8	+0.3
名古屋	27.8	+0.8
大阪	28.9	+0.9
広島	28.6	+1.0
高知	28.2	+1.2
福岡	29.0	+1.4

(注) 平均気温は8月28日以前の60日間の温度。  
(出所) 気象庁のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 猛暑効果で7月の小売業売上高は回復基調

■ 足元の個人消費は足踏み状態です。賃金の上昇が限定的なことから、なかなか消費にお金が行かない状況となっています。このため、商業動態統計の小売業売上高は、4-6月期が前年同期比で▲1.4%と、1-3月期の▲0.3%よりも悪化しています。

■ 30日に発表された7月の小売業売上高は▲0.2%とマイナス幅が縮小しました。猛暑のためか、衣服・身の回り品が前年同月比で+1.3%、飲食料品が+2.0%と回復したことが背景です。8月についても西日本の気温が特に高かったため、小売売上高の回復が期待できます。

**ここもチェック!** 2016年8月10日 過度な悲観が一服した「街角景気」(日本)  
2016年6月27日 「季節予報」は暑い夏を予想(日本)

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。